



元気いっぱいに絵札へ飛び込む子どもたち

みずさわ 絵札に向かってダイビング 黒石親子ジャンボかるた大会

第26回黒石親子ジャンボかるた大会（黒石小学校区子ども会育成会など主催）が1月12日、黒石小学校グラウンドで行われました。絵札は90㌔四方のベニヤ板に地域のPRや話題、防犯といったテーマで描かれたもの。冬休み中に子どもたちが制作しました。

この日は、同校の児童約30人とその保護者らが参加。前日から降り続いた雪がグラウンドいっぱいに積もる中、読み札が読み上げられると、参加者は元気に目標の巨大絵札に向かって飛び込んでいました。

いさわ 雪原に響き渡った歓喜の声 ひめかゆスノーフェスティバル2014

ひめかゆスノーフェスティバル2014が1月12日、胆沢区若柳のひめかゆスキー場で開催されました。雪遊びの楽しさを知ってもらおうと同スキー場が毎年企画しているもので、ことしで9回目。チビッコそり大会やモービルトレイン体験、餅つき大会、餅まきなどが行われ、多くの家族連れなどが楽しみました。

モービルトレインに乗った加藤彩希ちゃん（前沢南幼稚園・年長）は「楽しいから寒くない。（雪面が）でこぼこでおもしろかった」と話しました。



モービルトレインに乗り歓声を上げる参加者



大谷選手リトル時代のユニフォームに見入る来場者

みずさわ 郷土のスターに目を輝かせ 大谷翔平選手企画展

本市出身のプロ野球・北海道日本ハムファイターズ大谷翔平選手の企画展が1月2日から15日まで、市まちなか交流館で開かれました。大谷選手の活躍を「少年時代」「高校時代」「現代」に区分。プロ入り後の姿を写した写真22枚に加え、姉体小学校1年生の時に描いた絵画作品も展示されました。

また、花巻東高校時代に高校生最速の160*を記録した際に身に付けていたグローブとスパイクも披露されるなど、来館者は足を止めて熱心に見入っていました。



歳戸木上で「ジャッソー」と叫ぶ男衆

えさし 息災を祈り伝統の火祭り 伊手熊野神社蘇民祭

伊手熊野神社蘇民祭が1月18日夜から翌未明にかけて同神社で行われました。年祝連など約60人が参加し、無病息災や五穀豊穡を祈願。400年以上の歴史がある同祭りの目玉は、丸太を組んだ高さ約3mの歳戸木に、男衆が次々と上がる「火たき登り」。火の粉と煙の中で、下帯姿の男衆は雄たけびを上げながら身を清めました。

クライマックスの「蘇民袋争奪戦」では、一般の人も飛び入り参加。拝殿や境内、参道などで、男衆が激しくもみ合いながら、蘇民袋を奪い合いました。

こもがわ ミズキならし豊作など祈願 衣里地区で小正月行事が復活



ミズキに紅白餅をならせる参加者

衣里地区振興会（伊藤敏男会長）主催の小正月行事が1月15日、衣川区日向の農家レストラン・んめえがすで行われました。しばらく途絶えていた同行事ですが、地域の伝統行事を伝えたいという思いから、地区の老人クラブなどの協力を得て復活しました。

当日は地区民など約30人が参加。家内安全、五穀豊穡などを願いながら、地元の山から切り出したミズキに餅などを飾りつけました。きょうだいで参加した三浦柑夏ちゃん（衣里小1年）は「ことし一年、元気に遊べるように」との思いを込めて、ミズキならしを体験。そのほか、白ときねによる餅つき、人形劇の鑑賞などで、参加者は、ゆったりと流れる時間を過ごしました。

まえさわ 姿勢正し心を込めて筆運ぶ 前沢区内小学生新春書き初め大会

第10回前沢区内小学生新春書き初め大会（前沢ライオンズクラブ主催）が1月4日、前沢地区センターで開催されました。1年生から6年生までの児童43人が、前沢圖南書道会員の指導を受けながら「もち」「正月」「希望」など、新年にふさわしい言葉をしたためました。

一画一画丁寧に筆を運ぶ児童や、中には勢いよく次々と作品を書き上げる児童も。前沢小1年の増田陸斗くん（7）は顔に真っ黒な墨を付けながらも「うまく書けた」と満足そうな表情を見せました。



手本を見ながら丁寧に「ゆめ」の字を書き上げました



思い出話を交えながら、馬との絆を語る千葉さん

まえさわ 五輪選手から学ぶ馬との絆 牛の博物館で「馬の講演会」

牛の博物館で1月11日、馬の講演会「前沢のオリンピック選手に聞いてみよう！馬と歩む50年」が開催されました。講師は、総合馬術で1964年の東京五輪に出場した前沢区出身・在住の千葉幹夫さん（78）。馬との出会いや選手時代の思い出などを語りました。

同講演会は、同館の企画展「馬〜ふしぎ〜」の一環で開かれ、約40人が聴講。千葉さんが「（競技で）勝ったのは俺じゃない、馬が勝ったんだ」など馬に対する敬意を語ると、参加者は頷きながら話に聞き入っていました。